



学校通信

夕陽丘

第20号



希望を持って果敢に挑戦を

校長 西出 博行

厳しい寒さに耐え抜いた梅の花がその芳香を漂わせ、日ごとに確かな春の訪れが感じられます今日の佳き日に、普通科 234 名、音楽科 39 名が本校を巣立ちます。卒業生の皆さん卒業おめでとうございます。

月日の経つのは早いもので、丁度創立百周年の記念事業を終えたばかりの名門の誉れ高き夕陽丘高校に入学してから、早や3年の歳月が経とうとしています。春爛漫を謳歌する校門の桜とクラブの先輩たちの祝福を受け、夢と希望に胸ふくらませながらも、ちょっぴり緊張の眼差して入学式に臨んだことでしょう。そして、青春真っ只中の3年間をこの学び舎で過ごし、人生でかけがえのない多くの宝物を手に入れたことと思います。それは、深い友情、家族や師弟の絆、思考力や判断力、体力、忍耐力、また資格や特技、賞状など人それぞれでしようが、それをさらに充実・発展させ、一生の宝物となり、武器となることを願っています。

さて、社会に目を転じますと、この3年間は「激動」という言葉がぴったりの変化に富んだ時代となっています。アメリカ大手証券会社の経営破綻に端を発した世界的大不況が深刻化し、まさかと思われるような巨大企業が経営難に陥っています。日本経済もなかなか景気が回復せず、雇用や賃金面で大きな打撃を受け、日々の生活を圧迫しています。政治面では、「チェンジ」を求めるアメリカ国民の期待にこたえてオバマ政権が誕生しました。わが国では、政権内閣が目まぐるしく変動し、昨年九月には、歴史的な政権交代がなされ、政治も徐々に変わろうとしています。

このような流動的で変化の激しい社会に船出する皆さんにとって、順風満帆な時ばかりではなく、行く手には大きな荒波が立ちはだかることもあるでしょう。「人生は羅針盤のない航海である」とも言われます。これからの人生行路を力強く突き進む上でぜひ心に刻んでほしい言葉を二つ、万感の意を込め、はなむけとして送りたいと思います。

一つは「常に希望を失わずに前進する」ということです。ナチスドイツの強制収容所に囚われながらも奇跡的な生還を遂げた精神医学者ヴィクトル・フランクル教授は、明日をも知れぬ過酷な極限状況下において、自分の運命を直視し、最後まで生きる希望を持ち続けた強靱な精神力の持ち主でした。人は過酷な運命に見舞われた時、それにどう対処し乗り越えるのか、まさに真価が問われます。決してあきらめることなく勇気を持って艱難に立ち向かい粘り強く解決の糸口を見出してください。いつかは必ず希望の光が見えてくるはずですよ。

二つ目は「失敗を恐れず、何事にも積極的に挑戦する」ということです。皆さんは今後の人生において、幾度となく難しい選択を迫られることがあると思います。その時は安易な方を選ぶのではなく、むしろ困難な方に積極的に挑戦してほしいと思います。そうすることによって自分自身が鍛えられ大きく成長するのです。たとえその挑戦が失敗に終わったとしても、その原因をしっかりと分析し突き止めてください。きっと次の挑戦に活かされ、今度は栄冠を勝ち取ることができるはずですよ。

それでは、第62期卒業生の皆さん、健康にはくれぐれも留意し、無限の可能性を秘めた今後の人生を力強く突き進んでください。春秋に富む未来の旅路に幸多かれと心より祈っています。

発行 〒543-0035 大阪市天王寺区北山町 10-10 大阪府立夕陽丘高等学校

TEL 06-6771-0665 FAX 06-6771-6267 E-mail: z-yuhigaoka@sbox.osaka-c.ed.jp

ホームページ <http://www.osaka-c.ed.jp/yuhigaoka>

携帯サイト <http://www.osaka-c.ed.jp/yuhigaoka/keitai/keitai.htm>

(題字 森 敏行先生)

夢をあきらめるな

第三学年主任 岩元 健

温雅・・・性質がおだやかで上品なこと。やさしくしとやかなこと。

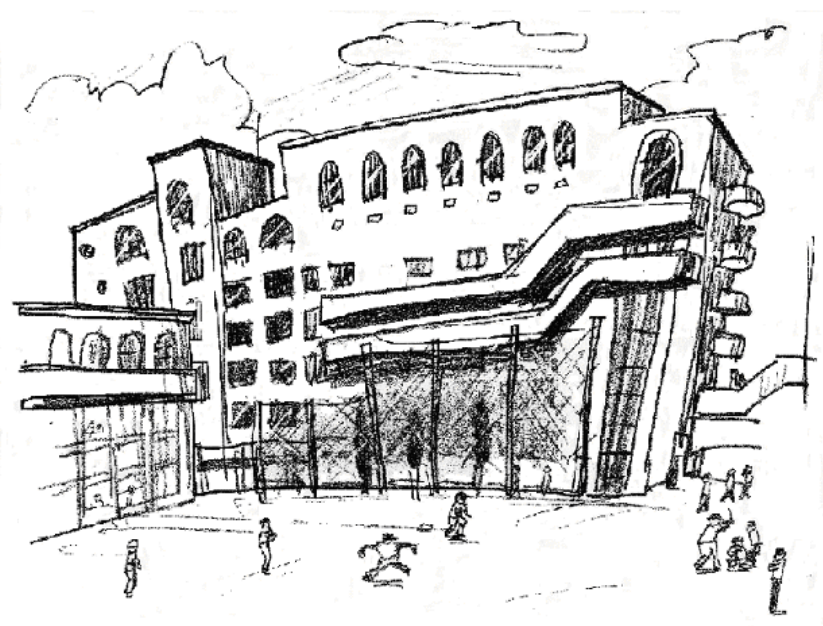
勤勉・・・仕事や勉強に一心に励むこと。

(「広辞苑」より)

62期の学年通信の題名「温雅・勤勉」の意味です。以前にも言ったかもしれませんが、これは、旧校舎の講堂にあった扁額の言葉です。夕陽丘生の一つの目標・モットーとされていたものだと思います。(君たちはそうなってくれていたかな?)

62期学年では、これまで夕陽丘ではしていなかった新たな取り組みをいろいろ行いました。その一つが、入学して最初の行事であったスプリングキャンプであり、また、希望者を対象とした夏や冬の勉強合宿でした。それらを通じて君たちに、いろいろなことに取り組むチャンス、チャレンジする気持ちを与えてきたつもりでした。どうだったでしょう? そのスプリングキャンプ後の学年通信(第2号)で浅田真央選手のことを少し取り上げたことを覚えていますか。(まだ持っていてくれる人は見て下さい)その当時彼女は、ちょうど昨日閉幕したバンクーバーオリンピックに向けて「あと1000日しかない。もっと練習しないと・・・」と言っていたことを書きました。普通であれば「まだ1000日あるから」と考えてしまうところを、自分の小さい頃からの夢であるオリンピック出場をずっと追い求めて、「もう1000日しかない、しっかり練習しないといけない」と考え、日々練習に打ち込み、見事念願のオリンピック出場を果たしました。そして、君たちもまさに1000日後の今日、夕陽丘を卒業していきます。君たちの夢・希望は叶ったでしょうか。希望の進路を実現できた人は、それで満足せずにさらに次の目標に向かって自身を磨いていって下さい。進路が希望通り実現できなかった人は、くじける必要はありません。まだまだこれからもチャンスはあります。何が起こるかわかりません。チャレンジする気持ちをなくさないでいて下さい。

「満足 妥協 限定」は成長の最大の敵です。いわれなき自己限定、「自分はこれで精一杯だ」「自分の力はこんなもんだ」「これくらいでもういいや」と、自らの成長を止めることなく、さあ、勇気を出して前向きに、**夢をあきらめるな!**



6 3 期 2 年 生 の み な さ ん へ

第二学年主任 諸正 邦彦

みなさんは夕陽丘高校の63期生として入学し、はや2年が経ちました。この2年間でみなさんはどのように「成長」したのでしょうか。私はこう「成長」したと言えるでしょうか。「成長」は時間の経過の中で単に年を経て成るものではありません。時間の流れの中で「かくありたい」と願い、その願いを獲得するための努力をすることによって「成長」は成り立ちます。無目的に努力する人はいません。それと同じように無目的に「生きる」人もいません。その生き方が、「単に生きるのか」「善く生きるのか」「より善く生きるのか」生き方の違いがあるにせよ何らかの生き方をしているのです。その生き方の中に「成長」があるのです。「成長」するためには「学び」と「努力」が必要です。この「学び」と「努力」はあなたを鍛えます。その鍛えられた何ものが蓄積され、蓄積されたものがあなたの「人生観」や「世界観」という「生きる力」になるのです。「人生観」や「世界観」は普段は何も感じないし考えて行動しているわけではありません。しかしこれが生きていく上での行動規範になるのです。行動規範は判断基準です。その判断基準は善悪の価値判断です。価値は「善さ」につながります。普段は何も感じないし考えないけれども、わたしたちは日々判断し行動しているわけですから、私たちの行動は「善さ」に支えられているのです。「善さ」とは「人間的善さ」のことで、実はわたしたちは知らず知らずのうちに、この「人間的善さ」を求めているのです。そしてそれが「人生観」や「世界観」の根底にあるのです。



さて、これからの1年間は一人一人の進路目標に向けてそれを実現するための「学び」と「努力」が求められます。その「学び」と「努力」は「成長」をもたらし、気付かないうちに自らの「人生観」や「世界観」が育まれ、「生きる力」が生み出されてきます。己の知らない世界を知る喜び、以前にも指摘したように「無知の知」を糧として「真理」に対して独断と偏見を排除し謙虚に「人間的善さ」を獲得するための「学び」と「努力」を一人一人が真摯に真剣におこなうことを通して、63期生が共に学び支え合って各自の進路実現に邁進することを願っています。

「日常六心」を贈ります。

「はい」という素直な心。
「私がします」という奉仕の心。
「お陰さま」という謙虚な心。
「有難う」という感謝の心。
「すみません」という反省の心。
「他者を受け容れ認める」慈愛の心。

底力をつけるために

第一学年主任 榎野 理啓

1年生のみなさん、去年の4月、入学したときに「夕陽丘の道しるべ」という冊子を受け取ったのを覚えていますか？そこに、学校のさまざまな制度の紹介とともに、「教科学習法」がまとめられていました。

現代文 - 教科書を楽しんで読んでみよう、から始まっています。古典 - 日本にはこんなすばらしい文化がある。数学 - 自分の頭でじっくり考える。理科 - それはなぜかと問う。社会 - 問題意識を持つ。英語 - あらゆることに好奇心を、と続きます。

どこにも、「点数を取れるように」とか、「受験科目にしぼって」「とりあえず暗記しろ」「入試英語に強くなれ」なんてことは書いていません。むしろ、まったく逆のことばかりが強調されています。

それはなぜか？生徒ばかりでなく、ついつい教師の側も、点数にこだわり、受験をにらみ、目の前の関門をクリアし、入試に備えて...、となりがちだからです。

もちろん、点数は取らなければならないし、受験を乗り切る力も必要です。だけど、そうした力をつけるためにこそ、楽しく、じっくりと、あらゆることに取り組むことが大切です。

入学から1年、教える側も、学ぶ側も、原点にたちかえって、充実した《学び場》をつくっていかうではありませんか。

【生徒指導部】

やせ我慢をしよう

3年生の皆さん、卒業おめでとうございます。1,2年生の皆さんもスタートラインは違いますが、それぞれが自分の新しいラインに立つ事になります。

スタートすればその時自分の置かれた環境の中で、長い人生で自分にとって役に立つ何かを得なければならないし、それを得るためにいろいろなことにチャレンジしていかなければなりません。

最近の高校生を見ていると、「最小限の努力で希望のものを得ようとする」傾向が強いように思います。たとえば勉強でも自分自身よく考えないで、先生にすぐ正答を求めたりすることはありませんか？早く正答を得ることが要領のよい勉強法だと考えてはいないでしょうか？

私が思うに努力とか頑張りというのは「粘り」とか「やせ我慢」という言葉に言い換えることができると思います。

マラソンの高橋尚子選手が、オリンピックで金メダルを手にした時、「42キロが楽しく走れました」と言っていた記憶がありますが、その言葉を聞いて「彼女はそれまでに何万キロという距離をどれほど苦しみ、我慢して走ってきたのか・・・」と彼女の長い「粘り」と「我慢」の時間を思いました。

しかし我慢したからと言っていつも報われるとは限りません。私が考える【やせ我慢】とは、なかなか報われなくても自分の力を信じ続ける粘り強さのことで、皆さんのこれからの人生では、敢えてこの報われない【やせ我慢】を多く経験することが必要なのではないかと思います。



【保健部】

教育相談委員会『あおぞら』より

2009年度はあなたにとって、どんな1年間でしたか？

「この1年間、何か学びましたか？」って聞かれたら、あなたはなんと答えるでしょうか？

『あおぞら』では、今年も述べ60人ほどの皆さんと話をしました。彼らの多くは、人間関係のトラブルが原因だったように思います。自己主張が強すぎてもうまくいかないし、かといって存在感がなくとも困りますよね。

勉強とか授業のことではなく、学ぶという意味を広く捉えてみてください。

毎日なんとなく過ごしているようで、いろいろと気持ちの変動はあったと思います。楽しくて充実して時間が早く流れていくと感じた日や、辛くてしんどくてずっとマイナスの気分の日々がこれからも続くのかと憂うつになったときもあったでしょう。どんな日もあるんだけど、それらはすべてあなた一人だけ感じているのではないのです。とくに、「誰も私の気持ちを分かってくれない」と孤独感を訴えていた人、あなたの話を聞いてくれる人はいたはず。自分の考えと同感でなければ、分かってくれないって思うのかな？

今年度4回本校へ来てくださっていた、カウンセリングスーパーバイザーの先生が教えてくださったことは、本校生徒だけに限ったことではないでしょうが、「自信を失っているから、誰かに自分を認めてほしいと思っている」ということでした。その認めてもらう方法が誤ったやり方になったとき、それがトラブルの元や周囲の人を困らせる問題になってしまうのです。



「支えてくれる人が居るから、前に進める」ということを学んでください。皆さんのような高校生の頃は、私がそうであったように、がんばったら自分一人で何でもできると思っているかもしれませんが、人は一人では生きていけないんです。もう駄目だと倒れそうになったとき、誰かの助けを借りないと立ち直れないことが多いのです。その誰かは、肉親であったり親友であったり先輩であるかもしれませんが、助けを求めることは決して悪いことでも恥ずかしいことでもないのです。自分の問題だから・・・と、一人で悩み続けて良い方向に向かうのであればいいけれど、とことんまで自分を追い詰めないで相談する勇気を持ってほしいと思います。

新年度は目の前に来ています。また新たな気持ちで学校生活を有意義に送ってほしいと願っています。同じ失敗は繰り返さない。それこそが学ぶということではないでしょうか。

本校の学校薬剤師が受賞されました！

おめでとうございます。田中諄一先生！！

昭和63年11月から現在に至るまでの長きにわたって、本校の学校薬剤師としてお世話になっております田中諄一先生が、このたび文部科学大臣賞と大阪府知事賞のダブル受賞をされました。



学校の環境衛生についていろいろと熱心なご指導をいただき、プールの水質検査をはじめとして、飲料水の水質検査、教室の空気検査（夏と冬）、修学旅行へ持参する医薬品や保健室に常備する薬品類の相談と管理、感染症対策、害虫の駆除などなど、何か異常があればすぐに相談させていただいています。

とくに、ウォータークーラーの水が安心して飲めたり、調理実習や毎年の文化祭で食品バザーが安心してできるのは、丁寧な水質検査を実施してくださる田中先生のおかげだと言っても過言ではありません。

また、教室の環境検査の時には、2時間みんなと同じ机に座って、時間を計りながらの検査をしてくださる姿を見たことのある人もいるでしょう。

安全に守られた学校の環境の中で、皆さんは学習できることに感謝して、しっかり勉強にスポーツに励んでほしいと思います。

【教務部】

TVでは日本選手の成功や挫折が映し出されている。1秒、1cm、1点の差で涙をのむ選手、銀や銅メダルが悔しい、などみんないろいろ言うけど、日本の代表が何年も努力しての結果だから、あたたかく結果を見守ろう。あの舞台に立つ事すら一般の人にはできないすごいことだ。

2010年夕陽代表である卒業生62期生の入試の結果も続々と届いている。3年間の努力は報われただろうか。

世の中には他人を蹴落とすことで自分が伸びると勘違いしている者がたくさんいる。心地よい言葉に惑わされ、できなくてもいいと妥協したり、美化したり陶醉したりして自分を見失う人もたくさんいる。

楽して得られる幸せは薄っぺらいものです。日々謙虚に、昨日の自分を超えられるように生きたいものだ。大志をいただき、自分を信じて1歩ずつ積み重ねて扉は見えてくる。結果をどのように受け入れ、どう変わっていくかでその人の価値は決まる。頑張れ夕陽！

【進路指導部】

行事報告

1年「進路講演」

10月29日(木)ピオーラホールへ仏教大学教育学部教授の原清治先生をお招きして生徒が卒業後の人生設計を今から少しずつ始めることの助けになるようにと、「フリーターになってしまう人の心のなか」という題で講演をお願いしました。先生は、最近の若者の学業と就職先等のご研究をされて「使い捨てされる若者たち」などの御著書があります。

講演の要点は、「中学で成績が良く、高校で成績が落ちかけた人に使い捨てられる人が多く見受けられる。」でした。みんなとても熱心に聞き入っておりました。講演後のアンケートには、使い捨てされないようになりたいので今から心をいれかえて勉強しよう、とか使い捨てされないようにするにはどうすればいいのかもっとお話を聞きたいという内容が多かったです。

ところでやや意外なことですが、先生が余談として大学の面接試験のお話から始まって面接試験一般のお話をされたときが生徒の皆さんの反応が一番良かったのです。またアンケートにも面接の話が大変参考になったとか面接の話をもっと聞きたいというのが多かったです。これは、案外普段学校のなかでは元気で我が物顔に振る舞っている生徒も実は気が小さくて将来受けることになる何らかの面接試験をととても気にしている(今の自分に対する評価が大変小さい)ことの現れではないかと考えられます。



1年「進路体験セミナー」

1年生では、勤労観・職業観を育成することを目的に体験学習を実施しています。以前は「仕事体験」を中心に「わたしの仕事館」に行ったり、専門学校先生に来ていただいて放課後に「体験実習」をしたりしていました。昨年は、『プロに聞く』と題して、「仕事」を知るのではなく、^{プロフェッショナル}専門的な仕事を持っている「人」を知ることを主眼に、専門学校先生から聞き取りをしています。

今年度は、11月13日(金)に実力テストの後、自分の興味や関心に合わせて、17の分野に分かれて専門学校を訪問しました。実際にその仕事をしている^{職業人}でもある専門学校先生に、ご自分の高校時代の進路選択や大学で学んだこと、職業や人生についての考え方などお話しをしていただきました。あわせて体験実習もおこないました。

振り返りのアンケートでは、「仕事に就く前だけでなく、就いてからも勉強を続けなければいけないことがわかった」「仕事ってすごい大変そうだけど、その分うれしさはいっぱいあると思った。そんな職業をやりたいなあと思いました」「自分らしく生きていると思いました」「基礎があったら他の道でも通用するんだなあと思いました」と感想を寄せてくれました。

2年「卒業生を囲む会」を終えて

63期2年生を対象に2月18日(木)、60期・61期生の大学生・専門学校生を中心に26名の卒業生を招いて「卒業生を囲む会」を実施しました。文学、外国語学、経済・法学、社会・教育学、食物栄養・看護医療・薬学、理学・工学、音楽、専門学校の各分野別に分かれて、それぞれの学校生活、受験勉強、将来の希望や職業などを中心に話をさせていただきました。どの分科会でも生徒たちは熱心にメモを取りながら聴いていました。その感想からいくつかを紹介します。



「今回話をされた3人の先輩とも『この大学に行きたい』という強い意志をもって受験勉強をしていたのがよくわかりました。行きたい大学に行ってる人は、授業を大切にしていると思いました。」「予備校に行かんと合格しているのはすごい。無料のやつを利用している方もあって、かっこいいなと思った。」「実際にうちの学校で勉強していた先輩の話なので、先生が言ったり、親がゆうことよりリアリティがあって参考になった。」「今までの考えが甘いことがわかって不安になった。受験勉強は苦しくて辛いものだが、どうせやるからには切り替えて全力で

取り組まなければならない。」

先輩からのアドバイスはとても有益で参考になったようです。

【音楽科】

主な音楽科行事報告

・1月18日(月)特別公開講座「ヴァイオリンの名曲歴史探訪～バロックから現代へ」

音楽科講師の井上隆平先生(ヴァイオリン)、木田志津加先生(ピアノ)によるデュオで、レクチャーコンサートが行われました。

・1月19日(火)特別公開講座「中村絃子氏によるピアノ特別レッスン」

世界的ピアニスト中村絃子氏にお越しいただき、音楽科ピアノ専攻生徒3名がレッスンを受講しました。実演を交えながら、感性を極限まで磨く必要性について助言され、生徒たちは深い感銘を受けていました。

<生徒たちの感想より>

「世界で活躍している人にレッスンを受けられて幸せでした。

時代背景など色々な話をしてくださり、ピアノだけ弾いていればいいのではないこともわかったし、本当に良い勉強になりました。」「各時代ごとの作曲家の演奏を見事に弾き分けておられたことに感嘆した。技術的な面を指摘するのではなく、

人間の深い精神性まで踏み込んでレッスンされる所はさすがだなあと思った。」「もっと想像する時間を作って、演奏の中身が豊かになるような努力をしていこうと思いました。」



・1月30日(土)第143回ピッコロコンチェルティスタ

・2月 6日(土)音楽科3年生演奏会

・2月12日(金)ハワイ・プナホウ高校とのテレビ会議「海を越えたコンサート」

今後の音楽科行事ご案内

・特別公開講座「ショパンレクチャーコンサート」

3月 8日(月)10:00~11:30 <於: ヴィオーラホール>

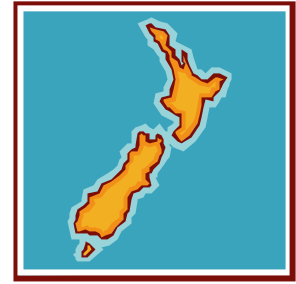
講師: 横山幸雄氏(ピアニスト・上野学園大学教授)

・「こころの再生」音楽祭出演(合唱とオーケストラ)

3月27日(土)13:30~15:15 <於: 大阪府立中央図書館ライティホール>

【国際交流委員会】

今年のニュージーランド語学研修の日程、及び費用が以下のように決定しました。



日時 8月5日(木)～8月19日(木)

費用 355000円 (35名参加の場合 人数によって変更あり)

燃油特別付加運賃 19000円(2月現在)は別途必要です。(変更する場合もあります)

昨年度申し込みをした生徒は希望すれば全員参加できます。4月に参加の意志確認をする予定です。また今年新たに参加を考えている生徒は4月16日(金)に説明会を実施しますので参加してください。

今年は希望者全員が参加できるよう、現地の受け入れ高校も複数手配しました。より充実した語学研修にしたいと考えていますのでよろしくお願いします。

5月18日(火)韓国から世和高校の生徒150名が修学旅行で本校を訪問することになりました。2年生を中心に交流を考えています。昨年度はこのような交流がなかったので今年は海外からの学校を様々な形で積極的に受け入れたいと考えています。

【当面の予定】

- 3月 1日(月) 第62回卒業式
- 3月 2日(火) 音楽科合格発表
- (2月25日(木))～3月4日(木) 1, 2年学年末考査
- 3月 9日(火) 1, 2年テスト返却
- 3月15日(月) 終業式
- 3月16日(火) 普通科学力試験(生徒登校禁止)
- 3月17日(水)～19日(金) (生徒校舎内立入禁止)
- 3月19日(金) 新2, 3年教科書販売
- 3月23日(火) 普通科合格発表・合格者登校
- 4月 8日(木) 始業式・入学式
- 4月 9日(金) 離任式・対面式・課題考査



編集後記

今年も別れと出会いの季節がやってきました。さみしさと同時に、新しいスタートに胸膨らむ思いです。世の中の情勢は厳しいものがありますが、勇気を持って一步踏み出すことでそこに道が開けます。一步の勇気で、自分の道を作って行きましょう。

